

## スマート農業技術を活用した産地づくりについて

下川町スマート農業研究会

下川町スマート農業研究会は、令和元年7月に設立致しました。当町では、フルーツトマトの栽培がメイン作物となっていることから、トマトが中心となって当研究会が活動しています。設立してからの主な活動と致しましては、令和元年12月に埼玉県の株式会社ニッポーと栃木県のトマトパークを視察し、ニッポーでは「日射比例式灌水コントローラ 灌水 NAVI」についての説明を受け、灌水の自動化により省力化や栽培技術の平準化を図りやすいことを学び、トマトパークでは環境制御システムについて説明を受け、ハウス内環境を測定しデータの活用方法や栽培管理について学びました。

また、令和2年8月には環境解析コンサルタント会社の株式会社デルフィージャパンを招き、トマトの圃場を巡回して栽培について指導を受たり、令和3年3月と12月にもフルーツトマトについての、栽培及び環境制御関係の講習会を行いました。

### 講習会開催の様子（JA北はるかホームページより）

2021.03.25 フルーツトマト栽培講習会開催



- 環境制御の目的
- 「Arsprout」のコンセプト
- 「Arsprout」の特徴
- 「Arsprout」の基本製品
- 「Arsprout」は「Arsproutクラウド」でできること
- 導入事例
- まとめ
- 質疑応答

3月中旬に下川町スマート農業研究会主催のフルーツトマト栽培講習会が新型コロナウイルス感染予防対策を十分に行った中で開催され、27名の生産者が参加しました。

上川農業改良普及センター上川北部支所専門主任の金田氏を講師に「フルーツトマト栽培の現状から考えられる問題点について」の講習が行われ、土壌溶液のEC値と果実Brixと塩分濃度についての調査報告等が行われました。

合わせて、(株)サカタのタネより、「低コスト環境制御システム」の説明会をテレビ・WEB会議ツールの「ZOOM」を使用して行われ、環境制御装置の説明や、導入事例などの報告がありました。

今後の産地としての課題は栽培技術での個人差が大きいことや、労働力不足が課題となっているため、環境制御システムを普及し、生産技術の平準化及び省力化を図ることが出来るよう進めていきたいです。

(JA北はるか下川支所 営農販売課 高橋 太 01655-4-2029)